

JPAIS/JASMIN International Meeting 2014

JPAIS 財務担当役員 田名部元成

2014年12月13日、情報システム学の国際的学術組織 Association for Information Systems (AIS) の日本支部 JPAIS と本学会との共同により JPAIS/JASMIN International Meeting 2014 が開催された [1]。この会議は、例年 AIS が主催する情報システム国際会議 (ICIS) の公式併設会議として開催されるもので、今回で第7回目を数える。今回の ICIS (ICIS2014) は、ニュージーランドのオークランド大学で2014年12月14日から17日にわたって開催されたが、JPAIS/JASMIN 会議は、この会期の直前に開催された。

従来、JPAIS/JASMIN 会議は、参加者から参加費を徴収してこなかったが、今回初めて、AIS が提供するシステムを通じて参加費を徴収した。ICIS 公式の併設会議に参加するには、参加者は AIS の会員であり、また ICIS に参加登録をしていることが求められる。併設会議への参加申込みは、オンラインのシステムを通じて、ICIS への参加申込みと同時に行うことができるようになっており、参加費の徴収はその時点で行われる。通常、参加費の取り扱いは、国際会議運営側、併設会議運営側、そして参加者側にとって煩わしいものであるが、AIS のシステムはこれらの問題を解決している。そのため、多くの研究会 (SIG) や AIS 支部、情報システム学関連組織がこのシステムを利用している。

例年、ワークショップ、コンソーシアム、学会誌編集委員会のほか、ソーシャルイベントも併設会議として開催されており、今回の ICIS では、会議の前後、あるいは会期中に46の催しが開かれている [2]。この中には、ACM-SIGMIS といった AIS 以外の学会の SIG が企画する交流会もある。このように、ICIS は AIS 以外の他学会にも開かれている。この点は、とかく排他的になりがちな日本の学会も見習うべきなのかもしれない。

これまでの JPAIS/JASMIN 国際会議の開催状況は、次のとおりである (表1)。ミラノで開催された前回会議では、過去最多の15名の発表が行われたが、今回は残念ながら5名のみの発表となった。

表1 JPAIS/JASMIN 国際会議の開催状況

回	開催年	開催国・都市名	発表件数
1	2008	フランス・パリ	10
2	2009	米国・フェニックス	7
3	2010	米国・セントルイス	5
4	2011	中国・上海	8
5	2012	米国・オーランド	7
6	2013	イタリア・ミラノ	15
7	2014	ニュージーランド・オークランド	5

この要因は、JPAIS/JASMIN 国際会議を事前に十分周知しなかったこと、会議の開催日を決定する際に参加者が参加しやすい日程を十分調査しなかったことなどによる。次回からは、余裕をもってまた多くの情報を得て会議を企画したい。

会議開催に際しては、前回同様に社会情報学会から後援をいただいた。実は、故あって欧州情報システム会議 (ECIS) [3] の2015年次大会 CFP を、研究領域や関心にお互いに重なりがある社会情報学会 [4] や情報システム学会 [5]、ならびに情報処理学会情報システムと社会環境研究会 [6] でアナウンスしていただいたことがある。日本における情報システム研究を促進し、ICIS で日本における情報システム研究が数多く発表されるようにするためにも、JPAIS は、ICIS のオープンな精神に倣って、ECIS2015 のアナウンスをお願いしたような関連学会とさまざまなレベルで協力関係を構築していく必要があると考えている。

さて、今回の会議では、会場は従来よりも長めに確保していたが、発表者が少なかったために、一件あたりの発表や質疑を長くして、集中的な議論を行った。行われた発表は、以下のとおりである。

1. Motonari Tanabu & Yoshiki Matsui, Learning by making business simulation game for IS professionals development
2. Takao Terano, Experience Learning for Experienced Business People: A Personal Experience
3. Michiko Matsushita, ICT for developing coun-

tries as the tool for the economic innovation

4. Masaaki Hirano, Can IT Augment Organisational Capabilities?
5. Miki Namatame, Development and practice of peer review system for art education

進行中の研究に関する報告が多かったため、いかに今後の研究を進めるべきか、研究を論文として完成させる際にどのような点を補足すべきかなど、実践的で有益な意見交換が行われた。一つの発表に1時間ほどを費やして、深い議論ができたことは貴重であった。すべての議論が終わった後は、恒例の記念撮影(写真1)で会議が閉じられた。

今回の ICIS は、アメリカテキサス州フォートワース [7] にて2015年12月13日から16日にわたって開催される予定である。ICIS2015の参加に併せて、是非、JPAIS/JASMIN 国際会議 2015 への参加を検討されたい。

JPAIS/JASMIN 国際会議 2014 実行委員会

平野 雅章 早稲田大学 実行委員長
田名部元成 横浜国立大学 プログラム委員長
内木 哲也 埼玉大学
松下 倫子 関東学院大学
折田 明子 関東学院大学
小川美香子 東京海洋大学
太田 敏澄 元・電気通信大学



写真1 JPAIS/JASMIN 国際会議 2014 の参加者

参考 URL

- [1] JPAIS 公式ウェブサイト, <https://sites.google.com/site/jpaisnet/>
- [2] ICIS 2014, Auckland New Zealand, <http://icis2014.aisnet.org/>
- [3] ECIS 2015, Münster, Germany, <http://ecis2015.eu/>
- [4] 社会情報学会, <http://www.ssi.or.jp/>
- [5] 情報システム学会, <http://www.issj.net/>
- [6] 情報処理学会 情報システムと社会環境研究会, <http://ipsj-is.jp/>
- [7] ICIS 2015, Fort Worth, <http://icis2015.aisnet.org/>